

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679400095
法人名	有限会社 ひだまり
事業所名	グループホーム ひだまり
訪問調査日	平成 20 年 11 月 7 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 19 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4679400095		
法人名	有限会社 ひだまり		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	鹿児島県大島郡和泊町国頭2959-1番地 (電話) 0997-92-2398		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16-7		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.6

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(5 月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.77 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	朝戸医院 ・ 前田歯科クリニック
---------	------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ひだまり」は沖永良部空港近くの県道沿いにあり、地区の研修会館、郵便局、小学校、保育所等が近くにあり利用者も出かけやすい便利な場所である。管理者は事業主でもあり認知症介護経歴も長く、認知症ケア教材の整備をして、全島の事業所との交換研修にも積極的に取り組まれ、同業者や行政との強い信頼関係が築かれている。管理者は常に利用者の立場で考えて、旅行、ペットの持ち込み、日常的な地域の人々との触れ合いなど、今までの家庭環境の継続ができるように柔軟な対応をされている。又ご家族の思いを考えてホールにカメラを設置しインターネットでいつでも様子が見られるようにしてある。職員には管理者の考え方や思いが伝わり和やかで家庭的な雰囲気ホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前年度外部評価の改善点は家族等への報告で職員の交代についてその都度報告して欲しいとのことであった。それについては運営推進会議で異動の報告をしたり、ホームたよりで報告するなど改善されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は日頃の振り返りの機会と捉え、職員も入居者も同席し自己評価の項目ごと意見を話し合い作成されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	過去1年間の運営推進会議は2回の開催に留まっている。会議では前回会議での行事予定の結果報告、外部評価の結果報告、年度計画の説明、利用者の状況報告、その他メンバーの要望、助言など話し合われている。地域性もあって日頃からメンバーの方々とは交流があり必要な折、話し合いや相談は行われており改めて話し合う議題も少なく活発な意見も出されていない現状である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご家族には毎月ホーム便りや個別の写真などで生活の様子が伝えられている。ホーム内の様子はインターネットカメラでいつでも見えるようにしてあり家族の気になることは直ぐ電話がかかってくる。面会時も個人的な要望ぐらいしかなく管理者は意見を出しやすいように、以前独自に設けていた地域評価委員制度を復活させ家族の意見を表せる機会を設け業務の改善に活かしたいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	入居者、管理者、職員は地元の人で地域の行事にはいつも誘われる状態にある。毎月の長寿クラブへの参加、国頭保育園の夏祭り、港祭りパレード見物、避難訓練には地域のひだまり守り隊も参加、中学生の職場体験受け入れ、ホームのバーベキュー大会には地域の方の参加があり、敬老会にはそれぞれ入居者の地区への参加をするなど地域との連携が図られている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホールには4つの長文で書かれた基本理念が額に掲げてあり、その並びにもう一つ大きく手書きで書かれた理念がある。管理者と職員は理念の実践に向け、1.自己実現のために2.自己支援の介護3.スキルアップ・自己研鑽と短い文を考え日々取り組みで活かせるように工夫をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿ったケアができるように、管理者と職員は長い理念をわかりやすく短い言葉に置き換えてホールに掲示し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者、管理者、職員は地元の人で地域の行事(毎月の長寿クラブ、国頭保育園の夏祭り、港祭り見物など)にはいつも誘われる状態にある。避難訓練やホームのバーベキュー大会には地域の人に参加し、敬老会は入居者のそれぞれの地区へ参加し地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度外部評価改善点は職員交代の家族へ報告することであり、運営推進会議で報告したりホームたよりで知らせるなど改善されている。今年度の自己評価取り組みは管理者と職員、入居者も交えて項目ごと質問の意味を説明しながら意見を出し合って作成されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年間の会議開催は2回に留まっている。会議では前会議での行事予定の結果報告、外部評価の結果報告、年度計画の説明、利用者の状況報告、その他メンバーの要望、助言など話し合われている。地域性もあって日頃からメンバーとの交流がなされており、会議での意見交換は十分とはいえない。		運営推進会議はおおむね2か月に1回以上開催しサービスの活動状況を報告し、評価を受けるとともに要望、助言を聴く機会を設けるよう省令で義務付けられている。会議の開催を増やしサービスの向上に活かされる取り組みを望みます。

鹿児島県 グループホーム ひだまり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同敷地内の社会福祉協議会の建物では、管理者は週3回メタボの健康体操開催やひだまり勉強会(島の事業所を対象)を毎月開催しており、町及び社会福祉協議会との連携協力に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族には毎月ホーム便りや個別の写真、金銭出納帳(預かりのある人のみ)のコピーを送り報告をしている。又ご家族にはホールに設置されたインターネットカメラを通じ、いつでもホーム内の様子が見えるようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	インターネットカメラで気づいたことは家族から電話がある。面会時も個人的な要望ぐらいしかなく管理者は意見を出しやすいように以前独自に設けていた地域評価委員制度の復活を考えている。出た意見を業務改善に活かしたいと考えている。		地域評価員制度の復活に期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者の方が顔馴染みの支援が継続できるように、地域の人を正社員で採用し、職員研修に力を入れ、現場においても職員の負担軽減を図り介護機器を備えるなど職員が定着できるよう努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の法人内研修だけでなく、運営者は島全体の介護事業者のケア向上のため各種研修会を開催している。島外への研修にも職員の段階に応じて積極的に参加させ報告会も実施している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者が沖永良部内の同業者の中心になって交流が活発に行われている。管理者だけでなく職員、利用者も相互訪問しており、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学してもらったり、場合によっては無料体験もできる。隣接する介護予防教室で利用者同士の馴染みの関係を作るなど、本人が納得の上でのサービス利用を工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者の得意な料理方法や古い民謡、踊り、島の珍しい野菜の調理など教えてもらいながら共に支え合って過ごしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人やご家族から意向や希望を聞くと共に、職員は日常生活の中で本人の様子や言葉から意向や希望の確認をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、ご家族、職員で意見を出し合いながら、本人とご家族の希望を可能な限り聞き入れてより良く暮らすための介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>認定期間に応じてご家族を交えて検討し、現状に即した介護計画の見直しをしている。緊急な対応が求められる時はケアプランとして立案可能な状態になった時に作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人やご家族の状況・要望に応じて通院、定期健診、教会行きなど必要な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医の受診を継続できるように支援している。家族の希望で協力病院へ変更する人もいる。ホームとしては家族の希望を大切にし納得が得られるよう適切な医療支援をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは終末期の経験もあり家族の希望があればターミナルケアの受け入れをする。家族の遠い人には入居時に重度化した場合や終末期のあり方を話し合い、意向を確認している。近くの方は重度化した時点でご家族、かかりつけ医と終末期の在り方を話し合うようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの人権を尊重しながら言葉かけや対応を心掛けている。特に入浴時や排泄介助の場面では羞恥心への配慮がなされている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々その人らしい過ごし方ができるように、1日の流れに捉われることなく朝寝、買物、昼寝、教会行き、散歩と本人の過ごしたい希望にそって可能な限りの支援をしている。		

鹿児島県 グループホーム ひだまり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者は、ある材料を活かし、食べたいものを話し合い、必要な材料の買い出しに行ったり、下ごしらえをしたり、盛り付けを一緒にしている。職員は食べやすい調理の工夫をし、一緒に食事するなど入居者が楽しみながら食事ができるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴できる体制であり夏場はシャワー浴をしたり、体調の悪い人には清拭をしたり、本人の望む入浴を支援している。拒否する人にも声掛けの工夫をして2日に1回は入浴してもらうよう支援し、風呂上がりは喜んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、畑の野菜作りなど能力や特技などを活かした役割を持ってもらい、張り合いになるように支援している。老人会に出かけたり、ドライブに出かけたり気晴らしの支援もされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは便利な地域にあり、天気の良い日は市場や郵便局に出かけたり、保育園や長寿クラブの行事にもよく出かけている。ウッドデッキでお茶を飲んだり、10人乗りの車でドライブにでかけるなど外気に触れる機会を図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に出入りできる。夕方出かけた傾向の人も把握しており、退屈しないように用事をしてもらうなど心がけている。一人で出かけた場合、地域の人の協力も得られている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防団や地域の住民参加で夜間想定、昼間想定火災訓練をしている。地域住民で「ひだまり守り隊」が結成されており避難訓練では必要な物資の持ち出しや、非常食の炊き出しなど自主訓練もしている。台風時に備え買い出しや備蓄、自家発電機の備えもしている。		

鹿児島県 グループホーム ひだまり

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立表は町の栄養士に見てもらい、アドバイスをもらっている。食事摂取量は記録されており、水分量についても1日の摂取量を確保できるように各居室にやかんと湯のみを置いて不足しないよう支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広い食堂ホールにはゆっくり横たわれる畳のコーナーやソファがある。風通しの良い設計で島では11月でも玄関や窓が開放されている。アンスリューム、ローゼル、デンファーレ、クロトン、ザミオ、島みかんなど飾り、蛇皮線や太鼓が置かれいつでも島歌が歌えたり踊れたりできる南国情緒あふれる雰囲気づくりである。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にはそれぞれが大切にされていた品物や愛犬、使い慣れた調度品など持ちこまれ、花・写真・ぬいぐるみ・カレンダーなどを飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		